

第5期 東久留米市地域産業推進協議会
(第6回会議録)

- 1 日 時 平成30年1月17日(水) 午後6時30分～7時45分
2 会 場 東久留米市役所6階602会議室
3 出席者等(敬称略・順不同)

岩崎 哲二	大山 賢一	大山 裕嗣	小嶋 敦夫	齋藤 正人	篠宮 武博
篠宮 利則	篠宮 宣典	長谷山大輔	水越 泰弘	横山 和子	若林 弘子

事務局 鹿島、関、野村、森本、小山、武井、里見、笹生
傍聴者 2名

4 報 告

(1) 会長より 他団体への協力

(会長) お忙しい中、お集まりいただき有難うございます。11月に開催された「農業体験ウォーキング」及び、先日行われた「開運! 東久留米七福神めぐり」にご協力を頂いた委員の皆様、ありがとうございました。

本日は、前回会議からの事業と報告を各事業部よりお願いします。

(事務局) 本日は傍聴者が2名いらっしゃる。傍聴を許可してよろしいか。

(会長、副会長) よろしい。

(会長) ①11月11日(土) 東久留米市市民みんなのまつり(商工祭・農業祭)において、ひがしくるめの絆づくり実行委員会が実施する「ひがしくるめのき・ず・な手と手をつないでみんなで東久留米音頭」に参加をした。事務局より説明をお願いします。

(事務局) 「ひがしくるめのき・ず・な手と手をつないでみんなで東久留米音頭」は29の地域団体に構成し、今回で3年目の事業だ。実行委員会のメンバーとして地域産業推進協議会も参加している。駅西口ロータリに3重の輪をつくり東久留米音頭などを踊った。委員にはその際の整列等にご協力を頂いた。参加者も増え、恒例のイベントになっている。イベント参加者数511人(前年450人)。

(会長) ②1月13日(土)「開運! 東久留米七福神めぐり」のスタート会場整理手伝いへ参加した。

(事務局) 参加人数は速報値で2,400人であった(前年2,000人)。

(委員) 先日行われた「開運! 東久留米七福神めぐり」にて、地域産業推進協議会の皆様にはご協力をいただき有難うございました。元々このイベントは、地域産業推進協議会の委員であった西武鉄道が主催するイベントに地域産業推

進協議会がのったイベントであった。現在は官から民へと言う事で、完全な実行委員会形式でのイベントとなっている。来年も実行委員会を組織する一団体として参加して頂ければと思っている。

(会長) 昨日、東久留米市青年会議所の賀詞交歓会へ招待をいただき、参加をさせて頂いた。

(2) 各事業部の取り組みについて (報告・質疑応答)

① イベント推進事業部

● 農業体験ウォーキングについて

(事務局) 11月25日(土) 9時～13時頃に開催。市内の見どころを見ながら、徒歩で畑や温室を訪問し、収穫体験や花の育て方講習を通して、農産物の品質の良さ、市内の魅力に気付いてもらい、東久留米ファンを増やすことを目的とした。

主催：東久留米市地域産業推進協議会 共催：イオンモール東久留米

後援：東久留米市農業委員会、東久留米市農業経営者クラブ、東久留米市認定農業者の会、東久留米市

親子参加で募集し 13 組 29 名の参加を頂いた。東久留米駅西口で開会式を行い南沢方面へ向かった。地域産業推進協議会の委員にホスト役として各班について頂いた。途中、野菜クイズ等を行い篠宮氏の圃場で大根収穫体験を行った。委員と女性農業者等に協力いただき、1 人 1 本の大根を収穫。その後、篠宮武博委員の温室でシクラメン栽培・管理についての講習を受けた。たくさんのシクラメンの中から 1 組 1 鉢、好きな鉢を選んでお持ち帰り頂いた。その後、南沢湧水群を見学し、海老沢氏の直売所へ立ち寄ったのちゴールとなるイオンモールへ無事に全員で到着した。ゴールではイオンモール東久留米店の川上ゼネラルマネージャに出迎えて頂き、歓迎の挨拶を頂いた。参加者のお土産として、東久留米市認定農業者の会(後援)にPR事業の一つとしてご用意いただいた農産物詰め合わせセットをお渡しした。内容は、ブロッコリー、長ねぎ、キャベツ、キウイ、ニンジンで全て地場産野菜。参加者のお土産の他に、事業のPRポスター、大根収穫とシクラメン講習に関する経費をイオンモール様が負担して下さいました。イオンモール東久留米中本氏より、今回のウォーキング事業について、とても感謝していると前置きされたうえで、事業のふりかえりを聞き取ることができた。お客さまの笑顔が印象深く、やりがいのある企画であり、安心・安全に配慮された運営だった。今後、地場産野菜のPRや東久留米の観光PR、マイナースポーツ促進(オリンピック・パラリンピック関連)、少子化対策等ジャンルや種類問わず、社会貢献の一環でお客さまに利益が還元される企画であれば是非東久留米市と共催で実施したいと考えており、定期的・継続的な

開催をぜひともご検討頂きたい等とのことだ。

（委員）皆様の協力を頂いたおかげで、怪我無く、事故なく成功できた。事務局や講師役としてお子様に指導して頂いた方、地域産業推進協議会の委員、共催団体等の協力があり、参加された親子の皆様には十分に楽しんで頂けたのではないかと思っている。事業部長として御礼を申し上げる。ありがとうございました。

●平成 30 年度に実施する事業について

（事務局）

①東久留米の野菜を使用したカレー料理 東久留米名物のはじまりイベント（案）
東久留米名物のはじまりとして、市内飲食店及び新規飲食店開業者等をわくわく健康プラザに集め、東久留米市産の野菜を使用したカレー料理のコンペ（コンテスト）を行う。公募市民と有識者に東久留米らしいカレー料理を選ぶ審査をしていただき、選ばれた優秀レシピを市内飲食店へ普及させる。次の展開としてスタンプラリーやレトルト化へ繋げていく。（上位に賞を与える案もあり）

②特産品宣伝プレート

市内の農産物加工品や市内商工会ブランド認定商品、食品を統一名称「特産品（仮称）」とし、取扱店舗の入口やレジ横、商品棚などの目立つ場所に樹脂製プレートを掲げてPR、販売促進を行う。特産品販売の現状として、紹介・PRする冊子は複数あるが、特産品を販売しているスーパー・小売店の店内でのPRが不足しており、他の商品に特産品が埋もれてしまっている。

課題として、菓子、食品、酒、飲料など販売形態が多数あるために、特産品の売り場が分散してしまい購入希望者が探しづらい状況となっている。この状況を改善するため、東久留米市の「特産品（仮称）」として統一し、スーパー・小売店の売り場でPRしていく必要がある。

販売促進対策として、市内の農産物加工品や市内商工会ブランド認定商品、食品を統一名称「特産品（仮称）」とし、取扱店舗の入口やレジ横、商品棚などの目立つ場所に樹脂製プレートを掲げPRし、販売促進を行う。東久留米市商工会、JA東京みらい東久留米支店をとおして配布。100枚程度を製作予定。

効果として、色々な商品を東久留米の「特産品（仮称）」として統一してPRしていくことで、来客者の注意を引き付け販売促進につなげる。リピーターも商品を探しやすくなることで利便性も高まる。

③特産品PRマップ「東久留米大好きっ！」の改訂

東久留米ブランド認定商品もマップに掲載することを検討し、平成30年度に改訂作業をおこなう。

（委員）①東久留米の野菜を使用したカレー料理 東久留米名物のはじまりイベント（案）、②特産品宣伝プレート、③特産品PRマップ「東久留米大好きっ！」

の改訂の3事業を想定。2月に部会を行い、委員と協議を重ねていきたい。

（会長）3事業の比較だが予算しだいとの事か。

（事務局）予算要求はしているところだ。プレートに関しては、例えば設置した際、実際に店舗側が特産品宣伝コーナー等を作り協力をしてくれるかどうか等の現状も把握しておかなければいけないだろう。予算の成立について現状では未定である。

（会長）新規事業は難しいと聞いている。費用対効果の面でもう少し検討していく必要がある様だ。

（委員）デジタルマーク（画像データ）の様な形で、市HPで公表をしていくなど今後も協議をしていく。

（委員）農業体験ウォーキングについて、イオンモール側から「もう少しこうして欲しい」等の意向はなかったか。

（委員）実現はしなかったが、当初イオン催事場で地場産野菜の展示・販売等のイベントを予定していた。

②情報発信推進事業部

（事務局）

●イベント推進事業部との協力による協議会事業の情報発信

イベント推進事業部が実施した農業体験ウォーキングを取材し協議会 Facebook ページ「東京はしっこ☆チョコット東久留米」へ本事業部でオンタイムに投稿を行った。また、イベント終了後には動画を作成し投稿、事務局から市HPへも投稿。

●協議会 Facebook ページ「はしチョコ」の運営

市の魅力や最新情報を発信する手段は主に、市広報誌や公共施設等に配架されるチラシのみである。今まで使っていなかった媒体を利用して広く情報発信することを検討した中で、平成29年5月16日より Facebook ページの運営を開始した。市の職員以外が投稿する Facebook ページの運営は、東久留米市としては初めてである。他市の事例や委員でもある活性化センターの職員の皆様の経験談などを研究しながら手探りでの運営スタートアップとなった。運営しながら課題を解決していく方針で行った。本報告書作成時点の1月11日までの241日間での運営の結果90人のフォロワーが存在。推移として、フォロワーがじわじわと伸びている。女性44% 男性56%で、35-44歳 45-54歳の層が多い。「はしチョコ」への投稿で一番人気（リーチ順）は「公益社団法人 東村山法人会青年部の講演会を東久留米で行います！是非、来てください」だった。動画は12の投稿があり、再生回数が最も多かったものが「滝山・前沢みんなの夏祭り」、再生時間では「獅子舞が始まりました・・・」が最も多かった。

●ひがしくるめの魅力動画募集（仮称）について

主催は、東久留米市地域産業推進協議会（情報発信推進事業部）、後援 東久留米市を予定。天然資源、観光資源を、より多くの角度からとらえる事で、今ある資源を更に発展させる事と我々の予想を上回る新しい資源の発掘を目的とする。開催場所は Facebook ページ「東京はしっこ☆チョコット東久留米」もしくは Youtube への投稿を予定。参加対象者は在住、在勤、在学及び東久留米の魅力伝えたい人で、100 動画を予定。スキームとしては、テーマを決め作品を募集、順位をつける。今後の事業部で検討してからのスタート。外部協力者を募る予定。

●ダイヤモンド富士・開運！東久留米七福神めぐりについて

市ではダイヤモンド富士が市外の方に東久留米のことを知って頂くきっかけとなるように、この現象を PR。この取り組みをとおし東久留米に興味を持っていただき、来訪者を増やすことを目的とした。当日の様子としては、例年よりも若い方の参加が多かった。カメラを持った女子高生、ベビーカーを引いたお母さん、冬休みに入った小学生の集団などが、常連の 70 歳前後のカメラマンたちに混ざって富士見テラスに来場していた。中国系の外国人の姿が見受けられた。市外からの来訪者（飯能、川越、所沢、練馬など）も半分ぐらいの割合で見受けられた。同じ時期に高尾山でもダイヤモンド富士が見えるため比較対象とされることがあった。連日マスコミに露出することができ、良い PR の機会となった。東京 MX テレビ、J:com、TBS のニュースコーナー、お天気コーナーで放送された。テレビ朝日の「じゅん散歩」でも高田純次さんがロケに来た。富士見テラス下にあるパン屋さんからパンの良いにおいがした。富士見テラスの警備体制の強化のため交通整理、安全管理を行った。今後は、来場者の安全を一層確保しながら、より質の高い体験を来場者に与えられるような工夫が必要となる。そのためには、東久留米の特産品（ブランド認定商品、農産物）をお土産として観光動線で提供できるようにしたり、周辺商店街への周遊を高めるイベントを実施したりして楽しんで頂ける仕掛けを実施するなど協議会での検討がさらに必要である。

（副会長）動画の企画だが、ドローンを使った撮影は東久留米では難しいとの事であり、模索しながら考えていきたい。外部協力者も今後募集していきたい。事業名は早いうちに決めていきたいと考えている。

（委員）東久留米市は人口密集地域であり、高度な技術がある方が国の許可を取らないと飛ばすことが出来ない様である。2 月下旬に地域活性化センターに学生インターン生が来る。学生が東久留米市を訪問し、皆様のご協力のもと映像を撮り、この事業の参加を図って行く事も可能である。

（委員）魅力動画事業について、自分でやりたいが出来るのか不安がある方も

多いのではないかと。動画をつくるのが得意な方に「つくり方講座」などを通して手伝ってもらい、この事業をすすめられたらいいのではないかと。

（会長）現在、外部協力者団体はあるか。

（副会長）消防団、東久留米市青年会議所と、郷土愛を育む意味を込め市内にある 2 つの高校に打診をしたいと考えている。

③新産業創出推進事業部

（事務局）新産業創出事業部では、市内の産業発展・創出のための取組みを行っている。この取組みの一つとして「東久留米市立地希望者情報の提供事業実施要綱」を制定。市内に立地を希望する事業者を登録し、それを公開することで市内の利活用が可能な土地・家屋の所有者とのマッチングを行い市内産業の発展を図るものである。前回の地域産業推進協議会時点においては、7 月に制定された当該要綱に基づく企業立地希望者は無かった。しかし、その後 3 件の申請があった。内訳について、職種は「製造業」「看板広告製作」「建設業」で、求める土地面積は「100 坪～400 坪」であった。各事業者とも現在、事業を行っている土地・建物では手狭になってきているため、今以上のものを求めて申請がされた。これを受け、一定条件（登記地積が 600 m²以上の土地を所有する市内在住者もしくは市内に事業所がある企業）に合致する方に対し、現在、直接訪問するなど事業説明を行い周知をしている。訪問した所有者様は、自身の土地が準工業地域であり、様々な活用が出来ることも良く認識されていた。しかし、その活用の選択肢が沢山あるため「もしもの為に残しておく」という方も多かった様に感じている。今後は、この事業の利用者が増えるよう、企業側・所有者側の双方に更なる周知を行う。

（委員）まだ報告段階ではなく途中だが、現在進行中である。東久留米市内には準工業地域が 5%しかなく製造業の方に限界が来ている。外貨を稼ぎ税金を東久留米市に落とし、雇用も創出している企業が、推測ではあるが、今後 1 社 2 社と市外へ出ていく事が予想される。地域産業推進協議会の目的の一つ「税収を増やす」どころか、企業流出により税収減となってしまう可能性がある。次回の地域産業推進協議会で報告できるようにしたい。

（3）報告書の作成について

（事務局）2 年間の任期の協議会であり、平成 30 年 11 月 29 日で任期を迎える。併せて報告書の作成も願います。

（4）連絡事項

（事務局）地域産業推進協議会とは直接の関係はないが、体験型農園を新たに

横山委員が始める。農業は東久留米の重要な魅力であると考えており“親子で利用する体験型農園”という新たな取組だ。

（委員）定員は 10 組（応募者多数の場合は抽選）で、4 月に開校。1 年契約である。

（委員）つるし雛めぐりを開催中である。3 月まで市内の各所に展示し巡って頂く。今回は新たに購入した方の抽選枠を設け、販売店舗に利益が出るようになっている。

（事務局）ゆるキャラグランプリについて報告する。ご当地キャラクター全 681 の中で、「湧水の妖精るるめちゃん」は 299 位で半分以上の順位であった。得票数は 1,692 票（昨年より 100 票増）。色々な事業で「湧水の妖精るるめちゃん」の縫いぐるみを持って参加していると、個人での購入希望者や販売希望の店舗さんから声を掛けられる事があった。そういった面からも認知度が上がっていると感じた。

（事務局）市長が今年の漢字で「愛」と書いた。市長の思いは「絆」「人との繋がり」「郷土愛」で愛を育みたいと話をしている。皆様には、市をどうしていかの話をして頂いている。そういった中で、農業体験ウォーキングの参加者が、市内在住者であったのに南沢を初めて歩いたという方がいた。まだまだ東久留米市の事を知って頂くと言う事をやって行かなければいけない。昨日、ご招待頂いた東久留米市青年会議所の賀詞交歓会で“子供たちに夢を届ける”という話しにととても感激した。地域産業推進協議会の事業がこれに繋がり発展して行けばいい。歳入の創出が、将来の子供たちの夢に繋がりいいものになればいいと考えている。

（事務局）次回の開催時期だが 4 月頃に予定。後日連絡をさせて頂く。

（会長）本日はありがとうございました。

以上